

第2章 いわむらかずお絵本の丘美術館と地域コミュニティ

第1節 馬頭町立図書館のボランティア活動

図書館協議会と共に「いわむらかずお絵本原画展」と文芸講演会を開催し、美術館誘致のきっかけを作った団体が馬頭町立図書館婦人ボランティアである^(註1)。

馬頭町図書館婦人ボランティアの創設は1982年11月に教員や保育士の退職者で「絵本を通して幼児・児童に読書の楽しさや感動を伝えるとともに親子の絆を深める」ことを目的として取り組んでみようと言うことから発足した。現在の会員数は17名であり、退職者対象であることから年齢層が高く50歳代以上で構成されている。この団体のように20年もの息の長い活動を行っているボランティア団体は栃木県内では珍しいと言う。主な活動は幼児・児童を対象としたお話会で、また教職・保母の前歴を活かし参加する子どもたちの保護者に対する働きかけを積極的に行っている。ボランティア活動日は年五回として、遊具の製作や絵本・児童書の整備・イベント支援を行い、地域に合った読書環境づくり・読書推進を行っている。これらの定例活動費については全て会員の会費によって賄われている。

主な活動実績は1988年7月には日本生命財団児童・少年関係事業助成を受け、乳幼児からの読書環境づくりや啓発を目的としてベビーカー・紙芝居ケース・乳幼児用絵本の設置を行った。1994年3月には伊藤忠記念財団より子どもの読書推進助成金を受け、同年9月に「いわむらかずお絵本原画展」と文芸講演会を開催した。また、同年6月の県民の日記念式典において優良団体として表彰されている。2002年には子どもゆめ基金の助成を受けて「おはなし人材養成講座」を実施している。この団体の活動について馬頭町立図書館司書の星さんは「無理せずに継続していることが貴重に感じている。また、ボランティアのあり方が都市型とは異なり、近所の子どもを年上の者が面倒を見るような地域コミュニティの延長のような性格で、とにかく皆さん『人が良い』『まじめ』『温かい』方々です」と語る。

また、馬頭町図書館婦人ボランティアの他にも馬頭町立図書館で活動を行っている団体は二つある。一つは「たまご」と言う主婦の方々がお話しボランティアを行っているもので、もう一つは馬頭高校の生徒による「お話しボランティア」である。この馬頭高校のボランティアも息の長い活動をしており、21年続いていると言う。やはりこちらも近所の子どもを面倒を見るような感じの活動であると言う。学校の単位のためにボランティア活動をしている生徒もいるが、それだけではない者も多く卒業後も顔を出したり自分の子どもをお話し会に連れてくる参加者もいるそうである。馬頭町立図書館にとって、こうしたボランティアの方々がなくてはならない存在であることは確かである。

第2節 いわむらかずお絵本の丘美術館設立経緯

(1) いわむらかずおさんと馬頭町

世界的に著名な絵本作家いわむらかずおさんと馬頭町とのつながりのそもそもの発端となったものは1994年9月に伊藤忠記念財団より子どもの読書推進助成金を受け開催された「いわむらかずお絵本原画展」と文芸講演会であったと言う。この際に絵本作家としていわむらかずおさんが選ばれた理由は、いわむらさんが益子町の在住であり栃木県子どもの本連絡協議会を通じて宇都宮にある絵本専門店「ばく」の我妻さんと親交があったことと、我妻さんと馬頭町立図書館の前々館長であった方が親交が深かったことなどがご縁となったそうである^(註2)。町の山村開発センターで開催された原画展は8日間で入館者数4,500名を達成した^(註3)。この原画展にあたって活発な活動をされたのは馬頭町立図書館協議会と馬頭町図書館婦人ボランティアの方々であった。また、この原画展のコーディネートを担当されたのが以前からいわむらさんと親交のあった青木久子さんであった。

(2) いわむらかずお絵本の丘美術館の誘致

原画展を通していわむらさんと親交を持った図書館協議会と馬頭町図書館婦人ボランティアの方々はある日、いわむらさんが美術館設立の候補地を探していると言う話を耳にしたそうである^(註4)。当時、候補地に挙がっていたのはいわむらさんがお住まいの益子町・那須町・茂木町そして馬頭町であった。馬頭町が候補に挙がった理由の一つはいわむらさんと親交のあった著名な昆虫写真家の今森光彦氏が馬頭町は植生が南方系と北方系が入り混じっていて興味深い土地であると推薦した経緯もあるそうである。いわむらかずおさんご自身の考えにも、候補地には雑木林があるなど豊富な自然環境があることが条件となっていたようである。候補地の選定に当たって、馬頭町側から白寄前町長や教育長と図書館協議会などの委員による町民有志が幾度も益子町に足を運んでいわむらさんに馬頭町への誘致をお願いしたそうである。当時の様子を図書館協議会会長であり、いわむらかずお絵本美術館建設推進委員会会長、いわむらかずお絵本の丘美術館後援会会長の桑野弘さんはこう語る。「心情的に一途にいわむらさんの美術館には馬頭町へ来て欲しかった。」そこには観光資源や町おこしと言った打算的なものは全くなかったと言う。「ただ、こう言うものが町にあったら、と言う思いだけでした。」この打算のなさとお人柄がいわむらさんが心を打たれた要因の一つではないかと桑野さんのお話を聞いていて感じた。

(3) 誘致から建設決定まで

誘致にあたってのボランティア活動

いわむらかずお絵本の丘美術館の誘致にあたって尽力したのものとして「いわむらかずお絵本美術館建設推進委員会」の存在がある。この団体は馬頭町の図書館協議会と馬頭町図書館婦人ボランティアのメンバーが中心となって創設された。絵本美術館が開館する前に

はいわむらかずお絵本美術館準備室とともにムササビ観察会などや入館者が7,000名にも上った星野道夫写真展と言ったイベントを主催した。なお、いわむらかずお絵本美術館誘致の経緯（1994年～1995年）は別表のとおり（図表2 - 1）。

第3節 いわむらかずお絵本の丘美術館を支える人々

1998年に「いわむらかずお絵本の丘美術館後援会」が発足した。会員は馬頭町民が多いが町内外を合わせて現在の会員数は約110名である。活動目的は絵本の丘美術館の円滑かつ広がりのある活動を支援することであり、主な活動は草刈りや監視などのボランティア活動である。会員は中年の方が3割ほどで、あとの7割は60歳代以上の方であり、4,50歳代の農業を営む者もいるが会員の若返りが課題の一つとなっている。また、農場・雑木林を維持するに当たって会員数は常時100名程度は必要であるがこれをどうやって維持していくのかも今後の課題である。今後の狙いとしては、馬頭町の人材で例えば野鳥に詳しいなど様々な能力を持っている方々が存在するので、子どもの自然観察を促進する上でも動植物（特に植物）の観察調査にたけた方々に協力してもらうことが挙げられる^{（註5）}。後援会会長の桑野弘さんに活動を通して得た一番の成果を尋ねたところ、このような回答が返ってきた。「交流を通して自然と子どもを愛するいわむらさんの作品の意図がより分かるようになったことです。桑野さんご自身が実感されたいわむらさんの意図を少しでも子どもたちへ多く伝えたい、と言う気持ちが感じられた。そうした思いが絵本の丘美術館を支える原動力になっているようだ。

いわむらかずお絵本の丘美術館を支える人々の中で、核となる人物に地元で農業を営んでいる佐藤幸男さんの存在がある。『絵本で描く自然を子どもに実体験させたい』と言ういわむらさんの考えに共鳴した佐藤さんは約4ヘクタールの農場を開放し、畑の作付けと和牛約15頭の飼育を行っている。いわむらさんはあいさつ文で佐藤さんへの感謝の気持ちを述べているが、後援会長である桑野さんもまた佐藤さんに対して感謝の念を抱いている。「佐藤さんが協力してくれたから活動が成り立っているところも大きい。このことは美術館にとって非常に幸せなことだと思います。」今年の農業体験は、佐藤さんの協力で収穫できたもち米による餅つきで活動を終了したそうである。

馬頭町に「いわむらかずお絵本の丘美術館」が誕生してからいわむらかずおさんが発表した「14ひきのかぼちゃ」と「14ひきのとんぼ池」の二作品はいずれもえほんの丘フィールドとえほんの丘農場が舞台となっている。作品を描いたのは作家であるが裏方として尽力している馬頭町の皆さんの心遣いがこれらの作品には反映されているのではないだろうか。

図表2 - 1

年	月 日	事 柄
1994年	9月18日	25日まで「いわむらかずお絵本原画展」開催。

	11月19日	馬頭町にて岩村先生を交え絵本美術館適地調査実施。
	11月27日	同上。
	12月20日	絵本美術館誘致及び演劇鑑賞会事務打ち合わせ（図書館）
1995年	1月7日	演劇鑑賞会（都内前進座劇場にて）29名参加。演目：いわむらかずお原作 とがり山のぼうけん
	1月25日	絵本美術館誘致依頼（町長、企画商工課長）。益子町にて。
	1月29日	馬頭町にて岩村先生を交え絵本美術館適地調査実施。
	2月9日	先生絵本美術館誘致について関係者との協議（桑野弘・星武夫）。宇都宮にて。
	2月21日	絵本美術館誘致事務打ち合わせ（桑野弘・星武夫先生）。図書館にて。
	3月11日	馬頭町にて桑野弘先生絵本美術館適地調査実施。
	4月27日	絵本美術館誘致事務打ち合わせ（星武夫先生）。図書館にて。
	5月10日	絵本美術館誘致現地調査（桑野弘、星武夫先生）
	5月11日	絵本美術館誘致について関係者との協議（桑野弘先生）。宇都宮にて。
	5月18日	絵本美術館建設決定。
	5月25日	絵本美術館建設予定地調査。図書館にて。

資料：馬頭町企画情報課所有いわむらかずお絵本美術館誘致の経緯から。

（註1）2002年12月11日馬頭町立図書館星さんへインタビュー。

（註2）同上。

（註3）『広報ばとう』1994年10月号。

（註4）2002年12月11日いわむらかずお絵本の丘美術館後援会長桑野さんへインタビュー。

（註5）同上。